

表1.3.1 令和5年度補正CLT建築実証事業採択事業一覧

[illegible]

番号 (都道府 県)	応募者名 (建築主等)	応募事業者名 (協議会運営者)	実証の種類	CLTの主な 使用方法	実証する内容	提案 RC造、S造等他工法との比較にかかるとの提案	建設地	建築物概要	得られた成果概要	担当者氏名
7	株式会社神安建設 代表取締役 地持 秀治	株式会社西崎組 代表取締役 西崎 博史	建築、設計、性能	構造体	小豆島で事業所を建設するが、昨今のCLT建築は外装に木現し仕上げが少なく、CLT本来の木質を内外装ともに木質現し仕上げを実現することを実験により確認する。外壁は空気環境への断熱性能を向上させ、さらに、2階分のCLT通し壁パネル工法の採用による組工工数削減も期待でき、2030年のZEB・ZEH水準の適合化に向けてCLT木質建築物の普及に貢献できるよう検証したい。	他工法による類似の用途・規模における施工実績、および、離島である小豆島の同様の環境が豊富であり、本事業で実証するCLTとRC造で建設した場合の費用・工期・人工を比較検証することができ、CLTの材料調達、大型材料の搬入、合則工事等の課題を分析することで、大工の人材不足の中でもCLTは等価と見込める。離島に限らず、全国の大工の人材不足の中でもCLT建築物の普及につながることを予想される。	香川県 小豆郡 小豆島町	用途：事務所 構造：CLTパネル工法+RC造 延床面積：412.96㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和7年4月13日	・CLTダブルスギンの性能向上を確保し、施工性を満たしたディテールを実現化した。 ・CLTダブルスギンとその他方型仕様を断熱シミュレーション比較し、断熱性が向上した数値を示せた。 ・CLTダブルスギンの外装モックアップを製作し、季節時の施工性改善と現地での暴露試験によって塗料の性能を目視で確認できた。 ・CLT通し壁パネルを見現化することで狭小敷地での施工性向上と短工期を実現した。	株式会社西崎組 設計部 西崎 博二
8	株式会社響建設 代表取締役 丁野 敏明	株式会社響建設 代表取締役社長 丁野 敏明	建築、設計、性能	構造体	CLT3.6mモジュール標準化工法による4階建て集合住宅。4階建てによる構造的なハードルと耐火構造への対応に置き換えた場合とのコスト比較により、CLTパネル工法の有利性を検証する。さらに、BIM・金物オブジェクト公開開発作成とCASBEE認証・高知県環境対策の不助産の認定第1号を目指している。	過去4棟の完成したCLTパネル工法の建築物に比べて、不利な地盤条件の敷地に建てる場合の補強や基礎のコスト、そしてRC造に置き換えた場合とのコスト比較により、CLTパネル工法の有利性を検証する。	高知県 香川郡 香川町の町	用途：共同住宅 構造：CLTパネル工法 階数：4 延床面積：761.3㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和7年2月28日	・4F型化建築物の設計に用いた部材の特性値、及びCLT接合部の最適納まりが得られた。 ・施工、搬入レポートにより軟弱地盤の補強工法、大阪パネルの運搬、搬入、建て方の検証ができた。 ・3.6mモジュール標準化ユニットでコスト削減を試作し、4Fは3Fより約98%アップすることが分かった。 ・劣化アンカーセーブとCLTパネルサイズと吊り込み方法は良好な施工結果が得られた。 ・通貫性能検証比較データ	株式会社響建設 代表取締役社長 丁野 敏明
9	瑞穂建設株式会社 代表取締役 篠原 玄洋	ライフデザイン・カバヤ株式会社 代表取締役 池田 基弘	建築	構造体	大抵CLTパネルを用いた場合のコストを基軸とした加工・運搬・施工性の検証を行う。またCLTのT型スラブを用いた木質構造における通貫性向上に向けて構造方式を検証する。さらに建築関係の設計者や施工者だけでなく地域に対して構造見学会を数回行い、CLT建築に対しての関心や普及にむけたデータ収集を行う。	今回設計したCLT造の建築における建築コスト(躯体費・輸送費・施工費、その他労務費や工事スケジューリング加工・施工期間等の結果をまとめる。それらの項目に対して数値で設計した場合と比較設計した結果を分析し、施工レポートとともに取り纏め報告する。環境負荷削減や地域社会貢献なども含めて、総合的な判断においてCLT建築のメリットが明らかになると思われる。	群馬県 足利市	用途：事務所 構造：CLTパネル工法 階数：2 延床面積：800.19㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和7年4月30日	本事業で得られたコスト比較資料やアンケート資料のデータを用いることで今後のCLT建築の普及に活用できるという十分な手ごたえを感じることができた。CLTパネル工法のパネルサイズを工夫してコスト削減したことにより、今後の事例でも同様の工法で合理的・経済的なCLT建築が可能であることを示した。	ライフデザイン・カバヤ株式会社 代表取締役 佐竹 孝生
10	ナカミライズホールディングス株式会社 代表取締役 中村 太紀	株式会社studio KOVU一般建築士事務所 代表 坂口 友希夫	設計	構造体	本事業では、CLTによってユニット化した住戸である「CLTモジュール」による共同住宅に関する設計課題に取り組むことで、CLTの普及やコスト合算性について実証する。また、欧州ではCLTをモジュール化した集合住宅が多数実証されている。日本でも将来的に人手不足などから「集力化」が求められ、本事業を通じてオフサイト型のCLTモジュール工法を確立すること、建設現場における普及化や短工期化についても実証する。	本事業で実証する建築物と同じ建築物を鉄骨造で建築した場合について、総コスト・工期・人工等と比較し、施工・手作業の削減によるコスト削減等の課題を検討する。また、CLTモジュール工法を用いることで、大規模工期短縮が期待されることから、鉄骨造の場合と比べてコスト削減が期待でき、低価格化も実証可能になると考えられる。	愛知県 豊田市の			